

報 告 資 料

調整事項について

日付	図面	主体等	協議内容	課題事項	対応・修正事項
R5. 1. 23		第3回検討委員会		観光拠点機能 用地制限の厳しさ	現状での提案図面たたき台の作成
R5. 5. 10		あおい個別ヒアリング完了			
R5. 5. 19		あおいヒアリング報告			
R5. 6. 1	図面 1	あおい総合設計事業再検討提案	事業地過小のため、拠点と呼べる機能が不足	用地制限の厳しさ 観光拠点としての物足りなさ	町長協議へ
R5. 6. 12	図面 1	町長・観光課・あおい協議	事業地・今後の方針について	事業地縮小 漁網エリア中2階の設計で範囲を定める方針 観光拠点として持つべき機能の方向性	敷地は変更しない・観光拠点としての機能
～	図面 1	お魚センターの拡張に関する協議 農林水産課・観光課	国事業活用をしているため お魚センターの改修の可否。	補助要件と返還規定の確認	お魚センターの売り場の機能等を残せば可。
R5. 6. 23	図面 2	観光課・あおい	中2階の設計の確認・漁協との調整の確認	漁網スペースと観光拠点としての要素	漁協との敷地条件面の再協議・調整 町財政規模と補助上限額から適正な範囲を調整 正式な概算事業費の整理は漁協との調整が整ってから
R5. 6. 26	図面 2	観光課・あおい	漁協との協議資料確認		
R5. 6. 29	図面 2	漁協・観光課・あおい	中2階の設計と倉庫移設について 漁協内でのアクティビティ提供について	・中2階の設計上、検討課題である定置網について ・駐車場台数について ・漁港内海でのアクティビティ提供について	・定置網について、漁協内と船長での調整を依頼。 ・駐車場については、商圏調査等をもとに必要台数を算出 ・検討会での議論を踏まえ、現在の事業者の支障とならない範囲の事業選択のため、今回敷地内でのアクティビティ提供を断念。
R5. 7. 15	図面 3	観光課・あおい	駐車場調整 商圏調査等 選定根拠資料明文化		事業提案の上限設定 活用予定補助金（国費1/2）の上限額 5 億円 総事業費 上限 1 0 億円 必須施設・任意施設の最低限の素案作成
R5. 7. 24	図面 3	漁協・観光課	最終条件の確認 拡張についての基本計画概要への盛り込について	定置網スペース協議の最終聞き取り	図面最終確認
R5. 7. 26	図面 3	漁協・観光課	漁網スペースの最終条件確認	漁網条件整理完了（7. 25 漁協・定置網船長話し合い）	意見集約へ向かうため大枠の草案作成 補足資料作成

意見集約表

意見集約結果

第 1 回 3 回 検 討 委 員 会 意 見 集 約	導入施設に関すること		計画	図面	判断理由・対応等
	駐車場の台数確保		○	○	利用状況から最低台数38台以上確保
	御来屋の夕日を生かす施設		○	○	眺望可能な2Fの設定
	情報が集まる海カフェのようなものとコーディネーター在住		○	○	インフォメーション機能・カフェ
	アクティビティ後に利用したいシャワーなどの設備		○	○	アクティビティ対応機能
	カヤックやヨットなど漁港の船の出入りとの調整ができるアクティビティの選択		△	×	敷地内は安全面を優先。
	宿泊設備の検討		×	×	参入見込みや事業性が弱いと判断した。
	漁港内ではなく他の場所にカヤックを持っていくなどの動線と連携		△	×	施設拠点機能
	整備方針に関すること		計画	図面	判断理由・対応等
	拠点をとおして住民が楽しく魅力あるまちづくり		○	○	拠点位置：地域ニーズを踏まえて
	海の拠点エリアだけでなく、山と海を繋ぐ		○	○	整備方針+インフォメーション機能
	地球温暖化や磯焼けによる影響があるならば海を守る取り組み		○	×	整備方針
	観光だけでなく人口減少対策につながる情報発信拠点としての機能		○	○	インフォメーション機能
	住民が楽しそうに暮らしているところでの観光		○	×	位置づけ：住民交流
	子どもが危なくななく海で遊べるような環境		×	×	漁港内のため安全面と両立が困難 安全面を優先する。
	海の生き物や魚に触れられて子どもたちが楽しみながら過ごせる環境		×	×	敷地・漁協内での安全面による。
	コンセプト		計画	図面	判断理由・対応等
	ハワイやアートをコンセプトに		○	○	アート倉庫移設
	自然を求めて来られる方は多い		○	○	2階建てで海が見えるレストランを必須
	街道側からと海側からのそれぞれ特徴的な集落の魅力的で貴重な景色		○	-	町内・御来屋全体での展開
	街道側から見える短冊上にある空き家から見える海の景色		○	-	町内・御来屋全体での展開
	余所行きでなくて、地元の素朴な感じを出すような施設		-	-	施設全体での設計コンセプトによるため
	住み分けに関すること		計画	図面	判断理由・対応等
	山の拠点と道の駅と淀江ICとの住み分け		-	-	海：鮮魚、アクティビティ に向けた機能
	御来屋のアクセスの利便性活用		-	-	今回拠点候補地選定
	御来屋の拠点づくりだけでなくもっと広域に		○	○	アウトドアライフ構想
	店舗やアウトドアなど他の観光につなげる。		○	○	滞在拠点・インフォメーション機能
	御来屋全体を玄関となり、海岸や街道への動線を作る。		○	○	滞在拠点・インフォメーション機能

個別ヒアリング意見	ヒアリング意見	計画	図面	判断理由・対応等
	敷地の都合上、生活を営む漁協・漁師に寄り添いながら利用せざるを得ない。 事業規模の縮小せざるを得ない。	○	○	用地制約を考慮しながら最大限の計画図面を作成。事業者の手上げの妨げにならないよう必須施設・任意施設に分け、最小限の提案も可能とする構成とした。
	クラブハウス・バーベキュー等活用したい。	○	○	東屋部分や展望スペースの利用。
	津波等の安全面への配慮	-	-	建設基準法等関係法令を遵守
	御来屋住民の意向をくみ取ることが必要	○	-	住民説明会・パブリックコメント
	漁協が運営するレストランが基本と考える	△	△	運営主体は公募による。
	単独の拠点でなく御来屋全体で活性化するように民間活力による展開に期待	○	-	位置づけ新たな担い手創出
	おさかなセンター東側の敷地での計画を取り込む必要があると考える。	△	×	用地制約等により拠点単独では、完結は困難と推定される。
	海のアクティビティは西坪・木料の海岸で可能性があると思っている。	△	×	アウトドアライフ構想・観光戦略に基づき町としては各種施策の展開で今後補完していく必要がある。また拠点の整備により、民間事業者を刺激し、事業化の促進効果がある。
	釣り客が釣った魚を調理できるレストランも面白いが安全面への課題。	×	×	敷地・漁港内での安全面を優先しアクティビティ提供は本拠点では行わない。既存の生業を優先する。立ち寄りの動機になるシャワー・更衣スペース・食事等の要素は必須の施設として整備し、拠点の機能を強化する上では、商圈調査により土産物等の消費額が消費額が大きくなる傾向にあるため、素案の段階では任意施設としてショップを選定した。
	雨の日でも遊べる施設に（プール等）	×	×	
	海を育むことを学ぶ施設	×	×	
	漁協と調整可能ならシーカヤックで利用したい。	×	×	

参考（個別ヒアリング組織別）

A (委員所属団体)	海の観光拠点について	
	・お魚センターの改修から始まった事業 ・食堂を継続したい ・1階の販売と鮮魚裁き場、滅菌設備は残したい。 ・撤去倉庫（海側アート倉庫）機能を残して建て替える必要がある。 ・サザエ・カキ・カニなどはカキ小屋であれば販売や裁き場と連携可能 ・漁協内での海遊びは安全確保の問題やレベル差を考えると不可。	②
	漁網について	
	・漁網は整理が必要	
B (周辺事業者)	その他	
	・個人販売は原則禁止すべて漁協を通して市場に出ていく。	
	海の観光拠点について	
	・おしゃれな施設に人は集まる。 ・施設に全てを取り込む必要はない。 ・誰が実際に運営するか ・この後の広がりが必要 ・サイクルステーションはBIKAIでも行っている。 ・海遊びは別の場所が望ましい	① ① ① ②
	観光拠点の広がりについて	
	・夕日ひろばと御来屋のまちをつなぐカフェ等の広がりを期待。 ・カフェや民泊、サウナ、イベントをしたい人はいる。 ・天国の階段のようなアートのスポット（インスタ映え）があるだけでも人は集まる。 ・御来屋マルシェも魅力がある。	①
C (委員所属団体)	組織の活動について	
	・バスの誘致等を行い、漁村センターでの食事提供をしており、その後お魚センターへ ・ポートフェスティバルを開催、その後サザエ祭りとは共同開催している。 ・七夕飾りを制作、 ・SEA（C）級グルメのイベントを検討中	
	海の観光拠点について	
	・漁協との調整の中で規模縮小になると考えている。 ・おさかなセンターを含めた東側の敷地も計画に取り込む必要がある。 ・釣り客が釣った魚を調理できるレストランも面白いが釣り場の安全対策に課題 ・この場所だけでの展開は難しい、他の場所との連携も必要。 ・クラブハウス・バーベキュー・イベントも可能 ・津波に対する考え方の整理が必要	① ① ① ①

D (アクティビティ事業者)	海の観光拠点について	
	・大山町は雨の日に遊ぶ場所がない ・かにっこ館のようなタッチプールがあれば雨の日でも楽しめる ・自然歴史館のようなブナの森が育む水が、日本海にそそぎ海を育むことを学ぶ施設もいい ・サザエ、アワビ、モンバ、バース他にない海藻が育つ ・朝釣った魚を網から外し、その場で調理する家イベントがあった。 ・海を生かした観光拠点の整備を望む。	
	・この場所だけでの展開は困難と思われる。他の場所との連携も必要。	①
	・水質調査をする他にない機械を県が導入されたが活用されていない。イベント活用も考えられる。	
	アウトドアアクティビティとの関わりについて	
E (周辺事業者)	・シーカヤックは南側の構内で漁協と調整ができれば可能性があると考える。	②
	・屋内カヌープールでの体験ができる施設の整備も今後望む。	
	・名和川西はサーファーが多くシャワー等の整備も必要。	
	その他	
	朝まで光量の大きいライトで大人数の作業をすることもあり、宿泊は困難と考える。	
F (アクティビティ事業者)	検討委員会について	
	・条件整備を絞り込んでから進める必要があったと考えている。 ・意見の整理と条件の絞り込みが必要。	
	海の観光拠点について	
	・観光の推進の裏表があることには十分な留意が必要。 ・御来屋住民の意向はくみ取る必要がある。 ・おさかなセンターの建て替えが基準でそのくらいしかできないと考える。 ・拠点の運営に直接関わる考えはない。	
	・今回の敷地内で完結するものと思えない。その他の提案も必要不可欠だが今回事業の範囲外。	①
F (アクティビティ事業者)	海の観光拠点について	
	・多くの意見を聞きながら縮小せざるを得ないと感じている。	①
	・今回の敷地では漁協に寄り添いながら利用せざるを得ない。生活が一番。	
	・観光拠点はこの敷地というよりも御来屋全体での活性化が必要。民間活力に期待する。	①
	・コグステーションはこの場所がふさわしいと考える。 ・雨の日でも人が集まれる施設が望ましい。	
F (アクティビティ事業者)	アウトドアアクティビティとのかかわりについて	
	・漁網干場や南側港内で漁協との時間調整次第で利用できればよい。	②
	・案内などはインターネットで対応可。事務局は不要。パンフレットの設置ができればよい。	

G (委員所属団体)	海の観光拠点について	
	・おさかなセンターの改修事業から本事業が始まっていると認識している。 ・漁協が運営するのが基本と捉えている。 ・この敷地のみでなく御来屋全体での活性化が必要。 ・中断中だが民間で、民家の改修を行い事業を予定する動きはある。	①
	観光拠点とのかかわりについて	
	・直接運営に関わることはないが、議員の中に希望する方はあるかもしれない。 ・御来屋花火は何十年と続いている事業であり今後も継続する考え。	
H (委員所属団体)	海の観光拠点について	
	・漁港の敷地内であり、漁協の意向を十分に汲み取った提案になると考える。	①
	・おさかなセンター食堂の移設にプラスして何かできるか程度	①
	・住民同士の交流ができる場所になればよい。交流部がフェスタ等行う ・住民が立ち寄りできるスペースになることを望む。	
	海の観光拠点との関わりについて	
I (委員所属団体)	・運営等に直接関わることは考えにくい、近隣住民の意向は確認しながら進めたい。 ・人が集まればごみが散乱する等、困りごとが増える可能性がある。	
	その他	
	・買い物環境に対する不安。 ・アートの展開は推進していきたい。	
I (委員所属団体)	海の観光拠点について	
	・拠点にすることに無理がある印象	①
	・漁網の匂い	
	・今回予定地以外の近くに別の土地が必要。 ・お魚センターの建て替えであれば、どの機能を残すかは行政側の仕切りが必要	①
	海の観光拠点との関わりについて	
	・直接関わることはないと考えている。	

※

- ①拠点の規模又は施設全体の考え方に関すること
- ②事業予定地内でのアクティビティ提供に関すること